

「小さな自然再生」による“わくわく”の発生と伝播に関する研究

上田杏樹¹⁾・和田彰²⁾・白尾豪宏²⁾・瀧健太郎¹⁾

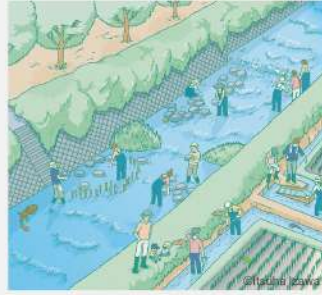
1) 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科, 2) 公益財団法人リバーフロント研究所

序論 “わくわく”：期待感に満ちた状態と定義
 “わくわくの伝播”：参加者が抱いた“わくわく”感を非参加者に伝えたり、次の活動に誘ったりすることと定義

- ・“わくわく”≡期待概念(結果期待+効力期待)
- ・効力期待は困難時のパワー¹⁾
- ・小さな目標達成が効力期待を高める²⁾
- ・期待確信度が目標達成に大きく寄与³⁾
- ・“わくわく”に関する研究は萌芽段階⁴⁾

小さな自然再生⁵⁾

- 小規模で速やかかつ低コストで行う自然再生の取り組み
- 3つの約束ごと⁶⁾
- 自己調達できる資金規模
- 多様な主体による参画と協働が可能
- 修復と撤去が容易



効力期待を触発

川づくりは川への意識向上に寄与⁶⁾
 「小さな自然再生」を対象として“わくわく”を解明したものは見られない

目的

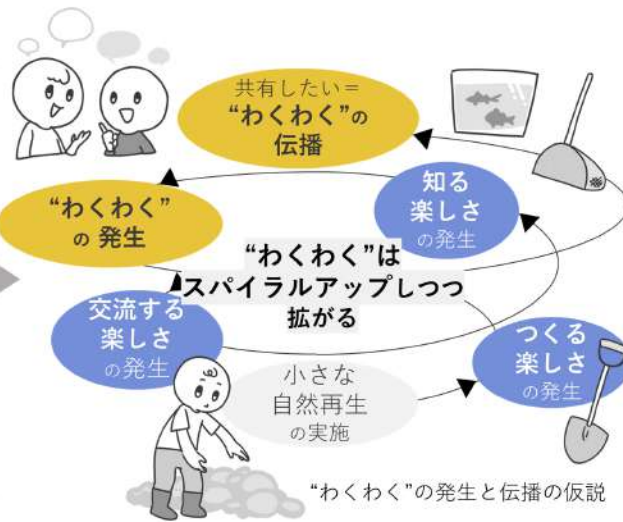
「小さな自然再生」が人を“わくわく”させ、活動が伝播するメカニズムを解明

方法

参加者の行動記録と“わくわく”の発生と伝播の仮説設定

小さな自然再生には3つの要素があると仮定

- ①知る楽しさ
生物や川の変化の仕組み等を知る楽しさ
- ②つくる楽しさ
川の形状・流れを変える等の作り出す楽しさ
- ③交流する楽しさ
他の参加者とコミュニケーションをする楽しさ



被験者をグループ分け

能動的参加者

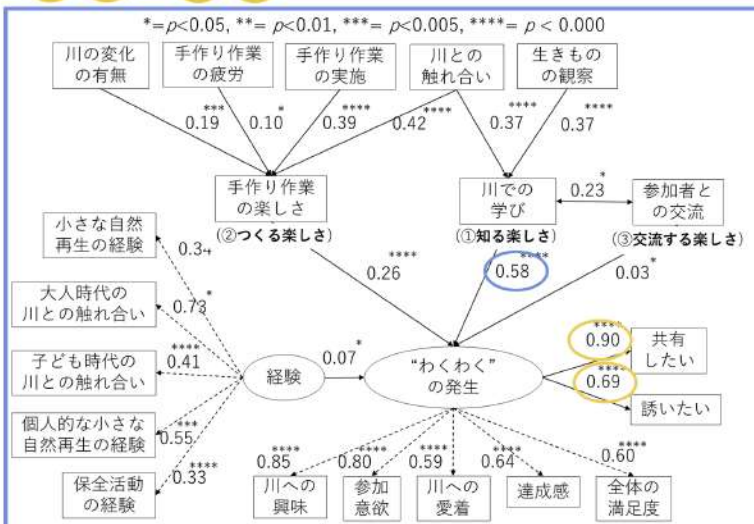
- JRRN等が主催する「小さな自然再生」研修会の参加者
- 各地で自主的に取り組まれている活動の参加者

受動的参加者

- 滋賀県立大学環境科学部環境フィールドワークの受講生
- ※矢倉川中流部(滋賀県彦根市)で4週間にわたり「小さな自然再生」に取り組む

共分散構造分析

結果と考察

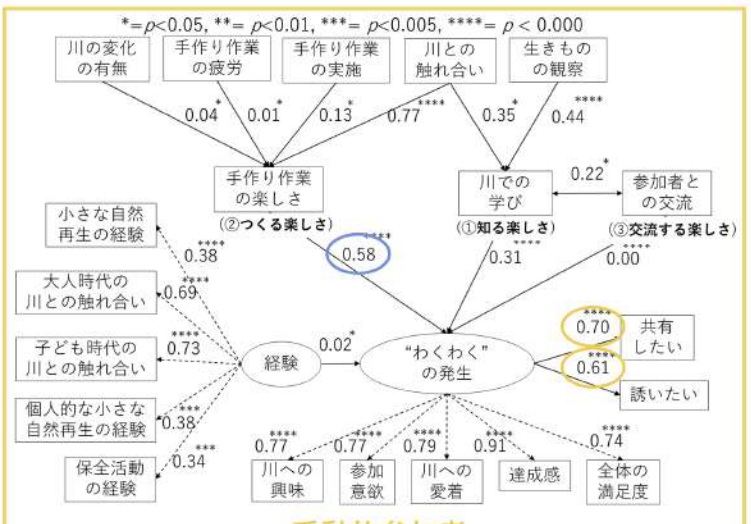


能動的参加者

参加者が活動のヒント(新たな知識)を得ようとやる気満々であると推察



手作り作業の実施後効果検証や観察会を行い専門家等の解説を入れる



受動的参加者

手作り作業が苦行ではなく作業自体が楽しくなる工夫を行うことが有効



手作り作業に強い疲労感なくつくることの楽しさを強調やってみることから

結論

- point 01 「小さな自然再生」で手作り作業(つくる)を実施し、その効果を理解する(知る)ことで、参加者に“わくわく”が発生する
- point 02 能動的参加者が“わくわく”するためには、「①知る楽しさ」を強調し、新しい知識が得られるイベントであることが求められる
- point 03 受動的参加者が“わくわく”するためには、「②つくる楽しさ」を強調し、作業自体が苦行でなく楽しいものであることが求められる

今後の課題

共分散構造分析に参加者の属性を考慮するに至らず

- 属性を追加
- 仮説・検証パス図の見直し+データ収集の継続
- 解像度を上げたモデルの構築

REFERENCE

1. Bandura, A.: Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavior change, Psychological Review, 84, pp.191-215, 1977.
 2. Bandura, A.: Self-efficacy mechanism in human agency, American Psychologist, 37, pp.122-147, 1982.
 3. 丹羽洋子: 児童の学業達成に及ぼす期待の影響について, 教育心理学研究, 第36巻, 第3号, pp.276-281, 1988.
 4. 井上亮太郎, 保井俊之, 前野隆司: 仕事におけるワクワク感に関する研究—因子分析及共分散構造分析を用いた要因の導出と構造化—, 日本感性工学学会論文誌, 19, pp.215-222, 2020.
 5. 「小さな自然再生」事例集編集委員会: できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集, 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN), 2015.
 6. 林博徳: 市民普請による間伐材水刺導入と川づくりへの意識向上効果, 河川技術論文集, 21, pp.211-216, 2015.